

新宿の文化芸術の更なる発展のために

令和4年9月からの2か年の新宿区文化芸術振興会議の第7期では、第6期から引き続いて「新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるICTの活用」及び「(新宿区全体への展開を見据えた)新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」を審議事項としました。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類から5類に変更され、利用定員の制限をはじめとした様々な制約がなくなり、文化芸術がコロナ禍前の活動を取り戻していきました。

「新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるICTの活用」については、新型コロナウイルス感染症の収束や社会経済活動の状況などから、「文化芸術振興におけるICTの活用による情報発信の強化」に改めて議論を深めていきました。具体性のある提言を行うために、文化芸術振興の事業「新宿フィールドミュージアム」と関連させて審議を進めました。

新宿フィールドミュージアムは、本会議の第1期の提言に基づいて平成23年に始まり、10年以上に渡り取組みを行ってきましたが、事業効果を高めるために更なる情報発信力の強化が求められており、公式サイトやSNSの活用などICTの活用による効果を非常に期待できる事業です。

もう一つの調査審議事項である「(新宿区全体への展開を見据えた)新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」については、現在大規模再開発が進む新宿駅周辺において広場等の公共的空間が整備される計画です。こうした公共的空間が、ハード的にもソフト的にも文化芸術活動が行いやすい空間となれば、様々な分野のアーティストなどにとって魅力的な活動の場となり、多様な文化芸術活動主体の連携を促進する取組みが進展していくことも期待できます。

本報告書が、新宿のまちで培われてきた文化芸術の更なる発展の一助となることを期待します。